

令和6年3月27日



担当課	人事課
担当者	根来・田村
電話	(073) 435 - 1019
内線	2576・2564

令和5年度 職員表彰式について

次のとおり開催しますので、お知らせします。

1 日時

令和6年3月28日（木） 午後4時00分 開式

2 場所

市役所本庁舎14階 大会議室

3 式次第

開式

表彰状授与

お祝いの言葉

受賞者代表挨拶

閉式

市長と記念撮影

4 表彰の目的

職務に精励し、他の模範となるべき顕著な功績があった職員を表彰し、もってその功労に報いるとともに職員の勤労意欲の高揚と業務能率の向上を図ることを目的とする。

5 表彰の要件

- (1) 職務に関し有益な研究、発明、改良等を行い、又は職務に精励し、他の模範となる顕著な業績があったと認められる職員
- (2) 職務外において、広く一般の賞賛を受け、他の模範となる顕著な功績があったと認められる職員

6 受賞者

別紙のとおり

令和5年度 職員表彰

表彰区分	表彰分野	局 部 名	課 名	職 名	氏 名	表彰事由等
功労職員	成績顕著	市長公室 企画政策部	企画政策課	事務主任	増田 康次	デジタル化を活用した地域課題や魅力向上の実現に向けた取組について、先端技術を活用した事業実施に精力的に取り組んだことが国交付金の獲得につながり、本市の新たなデジタル技術の導入にあたっての財政負担の軽減に大きく貢献した。
		市長公室 企画政策部	移住定住戦略課	事務主査	一ノ瀬 真志	「学生支援プロジェクト」を企画し、第1回プロジェクトは500名を超える参加があるなど大きな成果を上げた。また、今後の施策立案に当たり、地元の学生のニーズ調査を行い、学生の実態把握にも精力的に努めている。
		健康局保険医療部 (R4 都市建設局 建築住宅部)	介護保険課 (R4 住宅政策課)	副課長 (R4班長)	浜口 貴司	令和4年度において、スカイタウンつつじが丘の宅地分譲事業について、住宅メーカーと信頼関係を築き、売買契約を取り付けた。また、個人向け販売においても優秀な実績を上げ、一括売却と併せて25年ぶりの分譲地完売に大きく貢献した。
		福祉局 こども未来部	こども総合支援センター	企画員	池田 愛	心理担当支援員として、様々な家庭における困りごと等に対し、相談支援や寄り添い支援を行っている。また、働きやすい職場づくりに貢献し、支援家庭に関わる職員のスキルアップに取り組む姿勢は、他の職員の模範となっている。
		都市建設局 道路河川部	河川港湾課	班 長	中谷 伸吾	今年度、国土交通省に登録された「市堀川かわまちづくり計画」にかかる業務に積極的に取り組み、地域の賑わい創出に向けて大きな一歩を踏み出すことに貢献した。
	職務精励	総務局 総務部	総務課	事務副主査	萬谷 僚太	個人情報保護法の改正に伴う和歌山市個人情報の保護に関する法律施行条例の制定に当たり、優れた識見と熱意をもって主体的に役割を果たし、業務を円滑に遂行した。
		財政局 税務部	資産税課	事務副主査	梅本 美奈子	法務局からの異動事項を一手に取りまとめ、納税義務者宛先を決定する重責な業務を担当し、年間4万件超えの処理を正確に行い、法的根拠を持って適正に処理し、他の職員と連携を取りながら、安定した資産税賦課に大きく貢献した。
		教育委員会事務局 学校教育部	保健給食管理課	班 長	川端 邦元	中学校全員給食の実施に向けて、様々な課題がある中、班長としてリーダーシップを発揮し、業務を適切に進めている功績は大きい。
		教育委員会事務局 学校教育部	保健給食管理課	企画員	中西 孝宗	中学校全員給食の実施に向けて、他部局との連携を円滑に行い、関係機関と連携を取りながら業務を着実に進めている功績は大きい。
	功労職域	成績顕著	危機管理局 危機管理部	総合防災課 〔和歌山市事前復興計画策定 チーム〕	班 長 事務主査 事務主査 事務副主査 事務副主任	河端 貴裕 椎木 瑛済 吉川 拓弥 柳瀬 由貴 東田 陽平
産業交流局 産業部			産業政策課 〔企業立地班〕	副課長 班 長 企画員 事務主査 事務副主査	高垣 秀康 赤堀 光洋 妙中 将之 木村 隆文 細川 晃司	本市への進出意欲のある企業に対し積極的に誘致活動を進めたことで、令和4年11月から約1年間で市外8企業の誘致と市内5企業の増移設を実現した。また、世界的グローバル企業の施設誘致を粘り強い交渉の末に進出合意させたことにより、本市の将来につながる産業の活性化に大きく貢献した。
企業局 水道工務部 下水道部			水道企画課 下水道施設課 〔企業局共同開発チーム〕	班 長 班 長 技術主査	宮之原 和俊 永岡 亜隆 東川 仁士	上水道の安定供給確保の取組の一環として、通水機能の確保を目的とした伸縮機能を有する既設伸縮可とう管の補修材について、事業者と共同開発し、現在、特許申請中である。また、開発した製品を六十谷水管橋に設置し、製品機能についての実証を行っている。将来的には全国の上水道の安定供給に寄与するものと期待され、その功績は大きい。